名立区 地域協議会だより

【第47号】2024年3月25日発行

発　行：名立区地域協議会
編　集：協議会だより編集委員
事務局：名立区総合事務所
　　総務・地域振興グループ
電　話：025-537-2121

4年間、本当にありがとうございました

令和2年4月29日に市長から任命を受けた第5期地域協議会委員の任期も、残すところ後1か月程となりました。この4年間、地域の皆さんからご協力をいただきながら、様々な取組を行って来ました。

特に自主的審議事項では、「ろばた館の利活用について」をテーマとして、地域で活動されている団体の皆さんと意見交換を重ねる中で、 地域の思いや熱意を伺うことができ、地域全体で協力することで、名立区の未来は明るい方向に進むことができると実感しました。

また、3月2日に行った活動報告会では、名立区に住む子育て世代の皆さんから、私たちでは思いつかなかった視点での貴重なご意見を沢山いただきました。

私たちの任期はこれで終了しますが、次期委員へ引継ぎを行い、これからも「誰もが安心して暮らせるまち」を目指して協議を続けて参ります。4年間、本当にありがとうございました。

4年間を振り返って

会長　原田　秀樹

前塚田会長から会長の職を引き継いだのは令和2年、もう4年が過ぎようとしています。塚田様の丁寧な会議進行や行き届いた気遣い等は私の理想とするところでいたが、少しは成長できたのだろうか？と自問しつつ答えられない自分がいて、少し情けない気持ちになります。

地域協議会を取り巻く状況は、制度ができた頃に比べ大きく変わったように思います。新型コロナウイルスとの共存を選択し、また地域活動支援事業も地域独自の予算事業と形を変えて実施されるようになりましたが、今の名立区にとって、最善の選択になっているのだろうか。まだまだ話し合わなければならないことが沢山あるのに、いざとなると問題や要点を見失ってしまう、そんな思いに右往左往しながら任期は終了となります。

今日までの皆様のご協力に感謝申し上げ、後進に未来を託します。ありがとうございました。

協議会委員活動を振り返って

副会長　髙宮　秀博

元日に発生した能登半島地震、大変な被害がマスコミ等によって報道されました。当名立区も相当揺れたことを思い出します。避難された方も多数いたと聞き、改めて自然災害の恐ろしさを身に染みて感じているところです。

幸い、名立区においては大きな被害もなく、ほっとしました。

さて、地域協議会についてですが、4年間の任期が終わろうとしています。

現在は、主にろばた館の利活用について協議を行っているところです。関係団体と何度も意見交換を重ね、ようやく利活用案の形が見えてきたところです。

これからも話し合いを継続して、より良い形でろばた館が存続できればと思っています。

名立区の皆様に地域協議会に興味を持っていただき、ご意見・ご協力をいただくとともに、地域協議会への参加をよろしくお願いします。

ろばた館を思う

石井　浩順

地域協議会委員となって、早いもので4年が過ぎました。現在は「ろばた館の利活用について」を自主的審議事項として審議しており、時折ろばた館の建築にあたり、計画段階で度々県庁を行き来したことが思い出されます。

県から風呂は家庭用程度の大きさにとどめるよう求められ、現在の大きさを確保するために同じ補助金を使って同じ規模の計画をしている町村と連携して、ようやく計画が認められたこと、また設計された建物が地区の風景に違和感を与えないかという審査のため、国から任命された大学教授等の「景観審査委員会」の前で、写真やビデオテープを使い、プレゼンテーションをしたことなど、沢山の記憶がよみがえってきます。

市は、令和6年度末をもって「温浴」と市営としての「食堂」廃止の方針を示しています。各団体の皆さんと協力し、施設活用の方策を探りたいと思います。地域の皆さんのご協力がなければ施設の利活用はできません。些細なことでも、どんどん知恵を出し合っていきましょう。

活動を振り返って

小林　晴子

第5期の地域協議会が始まった時から、新型コロナウイルスのため、活動に制限があり、会長を中心にご苦労があったと思います。

少子高齢化は、どこでも耳にする言葉になりましたが、地域協議会でも、もっと若い方たちから委員になっていただき、名立区のこれからを組み立てていってもらいたいと思っています。

名立の宝である「ろばた館」の利活用についても、若い世代が動くことで、もっと活かせる方法が見つかると思います。名立の若者に期待します。

地域協議会を退任するにあたり

大門　廣文

1期4年間、地域協議会委員の活動を務めさせていただきました。

最も記憶に残っていることは、やはり「ろばた館の存続について」です。以前から、ろばた館の継続は大変難しい問題だと認識していました。住民へのアンケートの取りまとめに携わったことで、名立区の皆さんの思いを少しでも実現することが大切なことだと感じ、住民に寄り添うことの必要性も実感しました。

さらには、ろばた館の利活用検討分科会で、「まちづくり・地域交流分科会」の一員となり、振興会の立場も含め、意見交換をできたことは思い出に残っています。そして、住民の思いに少しでも近づけるように、立場が違っても努力できたらと思っています。これからの皆様のご活躍を祈念し、退任のあいさつとします。

4年間で感じたこと

竹内　隆

名立区の人口減少と高齢化率の高さに憂いをもって、自身の委員としての1期目がスタートしました。任期中は新型コロナウイルスに翻弄され、そして最終年度は元日の能登半島地震に衝撃を受けながらも、地域のために議論を続けてきました。

地域の課題解決や、諮問事項への答申、自主的審議を行うことなどが地域協議会の役割ですが、何より、「誰もがいつまでも住みよいまちづくり」が名立区の目指すところです。

現在の地域協議会委員は60代や70代がほとんどですが、今後は40代を中心メンバーに据えて、その前後の年代の方で構成することが理想と考えます。地域協議会に参加していれば、少なからず名立区の実状が見えてくるはずです。皆で考えよう名立のこと！

終わりに、任期半ばに他界された、故草間照光委員のご冥福をお祈りいたします。

活動を振り返って

徳田　幸一

平成23年、委員として活動を始めて以来、3期12年が過ぎました。この間、名立区のさらなる発展に期待しながら会議に臨んできましたが、区内にあったテニス場やゲートボール場、保健センター、公民館など、老朽化や利用者の減少により廃止されていきました。

委員として任期の前半は、「交通手段」や「高齢者福祉」について自主的審議を行い、結果として福祉施設「名立ひなさき」が開業されたことはとても印象に残っています。

任期後半は、ろばた館の存続や利活用について、住民へのアンケートや関係団体との意見交換を重ねてきました。

任期期間中、資料の熟読や問題意識を持つことを心掛けて会議に臨んできました。12年間、大変お世話になりました。

4年間の活動を振り返って

中野　祐

地域協議会委員となり4年が経過し、人口減少が進む地域を、どのように住みよい地域に変えていくかを自身の課題としてきましたが、何もできずに終わってしまいました。

名立川に沿って細長く分散し、しかも人口減少が激しい名立区の端に立地した「ろばた館」をどのようにしていくかが最大の課題でした。温浴機能廃止後に、どう利活用していくか、「廃止後」と書きましたが、地域協議会での議論開始時は「存続に向けて」でした。

しかし、利用者数の減少や、修理及び維持管理費が多大であることなどから、温浴機能は廃止し、その他の部分を活用していくこととなりました。

その具体的な方法について、地域の皆様から積極的なご意見をいただきたいので、ご協力をよろしくお願いします。

大好きなまち名立

二宮　香里

私は2期8年間、委員を務めさせていただきました。名立区に引っ越してきたばかりのころは、右も左も分からないような状態でしたが、委員として区内外で大勢の方とお会いする機会に恵まれたことは、貴重な経験でした。

視察研修で見たこと聞いたことの中に、名立区で役に立つことはないか、他区の委員との話し合いの中で共通することはないか、考えてきました。

また、中川市長の政策で、地域活動支援事業は廃止となり、地域独自の予算事業という新たな仕組みができ、委員の役割も変わりました。

地域の課題を考え、誰もがいつまでも住みよいまちをこれからも目指していきたいと思います。8年間、ありがとうございました。

4年間の活動を振り返って

畑　芳雄

地域協議会委員として、何も知識がなくスタートし、自分自身が学ぶことばかりで、あっという間に4年間が経過しようとしています。

任期中に、地域活動支援事業が終了しましたが、それ以外は今まで通り協議をしています。現在は、ろばた館の関係で、令和7年3月末で温浴機能と食堂機能が廃止となり、その後のろばた館の利活用方法について、住民の皆さんや活動団体の皆さんのお力を借りながら、ろばた館が今後も地域活性化の拠点施設となるよう、審議しています。

地域の課題も複雑・多様化しているように感じます。地域住民と委員一同、協力して盛り上げていければと思います。

まちづくりへのチャレンジ

三浦　元二

令和2年4月から4期目の任期を務めさせていただきましたが、同じ時期から名立まちづくり協議会（まち協）の運営にも関わることとなったとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まったのもこの頃でした。こうした不確実な社会状況の中で地域主体のまちづくりを進めていく難しさをいずれの場面でも実感した4年間でした。

地域協議会とまち協は『まちづくり』という目的は同じであっても、そこへのアプローチや具体的な取組は必然的に違うものであり、表層的な補完関係ではなく、それぞれのあるべき姿を追い求める中で、個々の役割が担えることができたらと願っています。

まち協は4月からNPO法人として新たなスタートを切ることにしています。地域協議会の新たなチャレンジに期待します。

地域協議会活動報告会を開催しました

第5期名立区地域協議会の取組を地域の皆さんへお伝えするため、3月2日に名立地区公民館で「地域協議会活動報告会」を開催し、39名（うち小学生以下18名）の方から参加していただきました。

当日は委員による活動報告の他、子育て世代に地域協議会やまちづくりに興味を持ってもらうことを目的に、名立区で様々な親子イベントを企画している細谷祥大さんによる話題提供や、「親子イベント・パパママトーク」と題した、親子で楽しめる手形アート体験、そしてテーマ（子育て・イベント）ごとに分かれてのグループワークを行いました。会場は子どもたちの笑い声が響き、和気あいあいとした雰囲気に包まれました。

【委員による活動報告】

【細谷さんによる話題提供】

【親子で楽しく手形アートに挑戦】

【子育てをテーマにパパママトーク】

【パパママトークの意見発表】

パパママトークの主な意見

- 区内に子どもの遊び場があれば、親同士の交流の場にもなりよいと思う。
- 1学年の人数が少ないので、幅広い交友関係を持てる環境になってほしい。
- 名立の花火が素晴らしいとの声を聞いたので、もっとPRを！
- 子育て中の親が一息つけるイベントがほしい。
- 今回のように、地域で子ども同士が交流できる機会がもっとあるとよい。